



ミュンヘン便り ～ 極度乾燥 ～

今年の1月は寒波に見舞われています。この原稿を書いている1月下旬の今朝、ラジオのアナウンサーは、バイエルン州北部の気温がマイナス21度であったと、少々興奮気味でした。私のベランダの気温が朝8時半でマイナス7度。これは窓のすぐ外の温度なので、実際の戸外の温度はもっと低いです。外を歩いていると、鼻をマフラーで覆いたくなります。低い鼻でも突出部分であることを実感します。

全てが凍りついているせいか、空気が乾燥します。暖房すると、さらに乾燥するのはどこでも同じ。水気のない事務所の湿度は20%台となります。不覚にも年末に風邪をひいた私は、この極度乾燥に追従できず、ついに事務所の自分の部屋にホットプレートと鍋を持ち込み、部屋の片隅で終日水を沸かすことにしました。これでようやく、湿度を50%以上に保つことに成功しています。

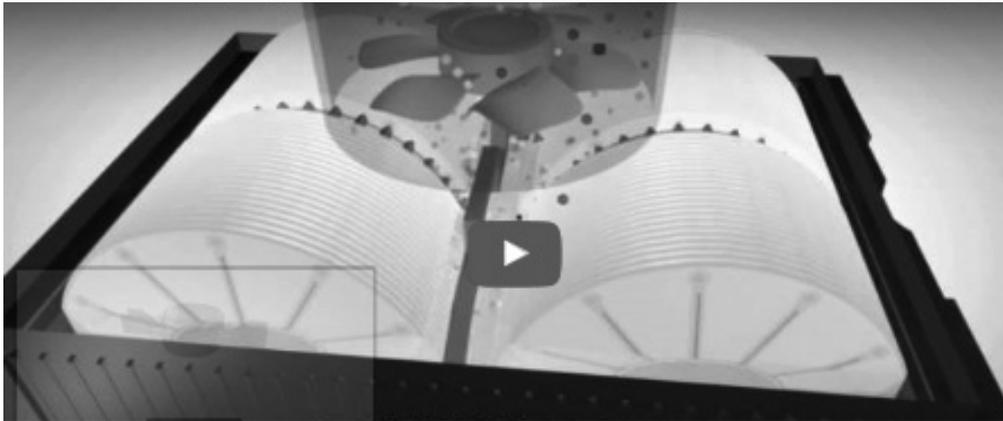
最近では日本でもドライノーズという現象があるようです。湿度の低いドイツの冬では、鼻の乾燥は伝統的かつ老若男女共通の問題です。風邪をひいてもひかなくても鼻を湿らすことが大事で、鼻スプレーは日常品です。ひとたび風邪をひいてしまったら、徹底的に鼻から水分をどんどん投入し、鼻の湿度を保つように、お医者さんからも言われます。ドイツのお医者さんは、風邪をひいて少々熱があっても、薬を簡単に出してくれません。熱は身体がウイルスと戦うのに必要、鼻スプレー、鼻洗浄、蒸気吸入、鼻クリーム

が一番です、と断言されました。

鼻スプレーは、薬ではなく、食塩水のスプレーで、これを一日に何回も鼻の奥に向けてシューシューするのです。鼻洗浄でもやはり食塩水を用います。鼻洗浄用のボトルは10ユーロほどで売られています。図のように、ボトルの下から出ている突出部分を一方の鼻の穴に当て、そこから生温かい食塩水をいれ、他方の鼻の穴からそれを出します。逆方向の洗浄もします。温かい食塩水を使うせいか、全く痛くありません。



蒸気吸入は、機械を用いる本格的なものもちろんありますが、家庭で一般的にするのはもっと簡単です。容器に1リットルほどの熱湯をいれ、その上に顔をかざし、頭からタオルを被り、タオル内に立ち込める蒸気を15分ほど吸い込むのです。鼻クリームは、綿棒などで鼻のちょっと奥の方につけ、フンッとそこからさらに奥に吸い込んで、鼻の奥の粘膜の乾燥を防ぎます。こういった手段は、風邪を引いたときだけでなく、日常的にしばしば、鼻の乾燥や風邪の予防の手段として家庭で用いられます。



困るのは、夜寝ている間に鼻が乾燥するという事実です。寝ている間は鼻スプレーもできず、マスクをしても寝相が悪くていつの間にかマスクがどっかに行ってしまう私は、寝ている間に鼻が乾燥してしまうのです。そこで、友人の勧めもあって、寝室にLuftwäscher（luftヴェッシャー、空気洗浄機）なる機械を投入しました。Luftwäscherは、英語に直訳すると、air washerとなります。要するに加湿器ですが、水を加熱することなく、加湿するという機械です。この機械は、下半分が水に浸かっている複数のディスクが回転して水を上方にかき上げます。ディスクの真上ではプロペラが回転しており、かき上げられて気化した水を空気中に送り出します。フィルタがないので面倒なフィルタの掃除が不要であること、水を暖めないのが衛生的であること、ディスクを食器洗浄機で洗えること、などからドイツでは人気があります。実はこれ、日本でも販売されています。上図は、ベンタというこの機械の元祖の会社のウェブサイトから転用した、この加湿器の仕組みの説明図です。この装置については、もちろん幾つの特許があります。

湿らせたタオルを寝室に吊るすなどの工夫もしましたが、ドイツの極度乾燥には十分で

はなく、特許技術のお陰で快適になりました。もっとも、私が使っているのは別会社の製品です。

ちなみに、「極度乾燥」という言葉を含むファッションブランドの名称があるのをご存知でしょうか？ドイツでは特に若者に人気があり、ミュンヘンやハンブルグなどにもショップを構えています。ショップの場所も、東京で言えば渋谷や青山に相当するようなホットなエリアにあります。てっきり日本のブランドがヨーロッパで人気になったのかと思って喜んでいたのですが、イギリスのブランドでした。ちょっと変わった日本語だなとは思っていたのですが。。

筆者紹介

稲積 朋子（いなづみ ともこ）

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、GIP Europe Patentanwaltskanzlei所属。1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe（GIPグループミュンヘンオフィス）設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。